

## 2016 年度事業計画書

当、公益社団法人マスコミ世論研究所は、平成 28 年度次のような事業を実施する予定である。

### 1. 諸分野における時事問題について、マスコミおよび当事者視点による情報の普及、及び世論の健全な形成を促進する事業（草の実アカデミー）

高度情報社会の民主主義は、大衆の日常の声の積み重ねから発せられる、権力と拮抗する厚みを持った世論の存在によって保たれるとの上田哲初代理事長の理念に基づき、本来あるべきアカデミズムとジャーナリズムの視座を引き受け、圧倒的な大衆（＝草の実）の日常の声の結集を図る場として機能することを目指している。

#### [1] 講演会、セミナー等の開催

##### ① 講演会・セミナーの開催

諸分野における時事問題を、マスコミ情報だけでは分からない実際の現場の視点から理解し、開かれた議論を行うことを目的として、講演会や公開セミナー等を開催する。講師として、主体的立場にある有識者、あるいは深い知見を有する当事者らを招聘する。

原則年 12 回の開催とする。テーマおよび講師は、担当理事を中心に企画会議にて決定する。各理事やこれまでの講師陣からもこの企画委員に加わってもらう。

併せて、この講演会・セミナーを、マスコミ、ミニメディアからブログ、ツイッター、フェイスブック、街頭宣伝まで、あらゆる分野と手法において継続的に言論活動を行っている個人・団体の相互の交流を図る場とする。

##### ② 講演会・セミナーのインターネット中継と動画の保存公開

講演会やセミナーはツイートキャスティングで中継し、映像を保存する。その映像は当法人が運営するウェブサイト（草の実アカデミー・ブログ）などからも、一般に公開する。

##### ③ ホームページやメールマガジンの運営

「草の実アカデミー・ブログ」や「草の実アカデミー・メルマガ」（原則月 1 回以上発行）を通じて、講演会やセミナーなどの活動予定、および実施した講演会等の内容についてタイムリーに広く報じる。

##### ④ 講師交流会の開催

講師陣の交流会を開き、情報交換や多方面との連携を図る。

#### [2] マスコミ情報の収集・分析

##### ① マスコミ情報の収集・分析

諸分野における時事問題の構造や特性、論点を分かりやすく紹介するため、マスコミによって流通する情報と、マスコミが触れない情報も含めて継続的に収集・分析し、一般に公開する。

ある時事問題に関する取材・著作・制作活動において際立った業績を残している方や、中心的立場にある当事者である方へのインタビュー（取材）を主として行う。その他に、新聞、雑誌、テレビ番組、ミニコミ、政府刊行物・官報などからの情報収集を行う。

今年度は全国紙と地方紙における情報の違いや、世論調査の差異についても注目する。

## ② 調査結果の公開

現在上の調査結果は主に講演会・セミナーの企画に反映されている。

また、「草の実アカデミー・ブログ」や「草の実アカデミー・メルマガ」を利用して、議論・研究されたテーマについての有益な情報提供を行う。

## ③ インターネット「世論力テレビ」局

過去の調査結果の一部についてはインターネット「世論力テレビ」局で、番組アーカイブやデータベースとして提供している。「二世三世議員リスト」等がある。

### [3]今年度の重点テーマ

上記の講演会・セミナーの開催、及びマスコミ情報の収集分析を実施するなかで、次の二点のテーマについては昨年度に引き続き強化する。

- ① 2013年12月に成立し、2014年12月に施行された、いわゆる「特定秘密保護法」に関して、裁判の動向、秘密指定の実態や影響を調査・把握するとともに、講演・セミナー等を行なう。
- ② 選挙法改正に関して。今年は参議院選挙もあり、公正で民主的な選挙を実現するための活動を実施する。一票の格差にとどまらない現行の不備を明らかにし、公職選挙法改正案を含め、具体的な代替案を考察する。

## 2. 一般市民が語る戦場体験の記録・保存・継承に関する事業（戦場体験放映保存運動）

### [1] 世論動向の調査、研究

#### ① 戦場体験のインタビュー記録の収集

“見たまま・聞いたまま”のナマの語りによってあの戦場の実態を語り伝えるため、元兵士世代へのインタビューを映像で記録する。元兵士世代が90歳を超える今、戦場体験を語り残す最終の機会である。

個人の体験を集積して歴史を継承しようとするこの試みに、一定規模の体験の蓄積は必須で、最後まで一人でも多くの体験を集めるべく活動し、呼びかけなければならない。

本年度においても、以下の活動に重点的に取り組む。

#### (ア) 体験者の掘り起し

継続的に聞き取り先の発掘・取材交渉を行う。

#### (イ) 「戦場体験を放映保存する老若の全国キャラバン隊」の継続

地域特性が強い戦場体験を全国規模で掘り起こす。

#### (ウ) 介護施設との連携（共同事業化に向けた調査・検討）

介護施設と連携して体験談の聞き取りを行う方法を模索する。

#### ② 戦場体験の語り・継承の記録の収集

日本の敗戦後から現在まで、戦場体験がどのように語り継がれ、どのように受け止められてきたかを、マスコミ情報や当事者らの活動履歴から幅広く調査する。

2016年度は、昨年度から引き続き以下の資料の収集にあたる。

#### (ア) 当時の書類や写真

記録や語りの裏付け、内容をより理解しやすくするための資料として収集する。

(イ) 体験者による記録（手記、日記、著作、絵画など）

一次資料として主に収集する。

(ウ) 体験者個人、および体験者の団体（戦友会など）が発行した書籍や冊子

体験者が主体となって編纂した書籍、冊子を指す。

(エ) 戦場体験の語り・継承にかかわる活動の記録（講演会の記録など）

第三者による二次的な資料として収集する。

### ③ 戦場体験の継承にかんする研究

戦後70年以降における戦場体験の継承のあり方を探る。時の流れとともにいよいよ体験者が少なくなるなか、戦場体験の継承はどのように可能であるのかを有識者を交えて検討する。

(ア) シンポジウム

日常生活のなかで戦場体験の継承の場をいかにつくるかをテーマとして、実践事例を研究し、具体的な継承の活動の方法論を探る。

(イ) 関連セミナー

戦場体験の継承に取り組むうえでの考え方や姿勢、知識を身に付けるため、有識者を講師に迎え公開セミナーを開催する。

(ウ) 研究成果の報告

シンポジウムとセミナーの内容を冊子にまとめる。

## [2] 戦場体験史料の公開、継承（戦場体験史料館）

### ① 戦場体験史料館・電子版

戦場体験のインタビュー記録（インタビューを書き起こした文章と映像）は、あの時代を考えるための大切な史料として戦場体験史料館で公開する。

また、当時の書類や写真、体験者の手記などもインタビュー記録とともに公開する。

公開にあたっては、第三者による編集を極力行わないように配慮する。

(ア) 戦場体験のインタビュー記録の収蔵

2016年度の目標は400名（累計）とする。

(イ) 関連資料の公開

当時の書類や写真、地図、体験者の手記などを公開する

### ② 語り継ぐ活動

(ア) 戦没兵士の遺族主催の展示会への協力（5月、都内）

遺族の視点からあの戦争を伝える展示イベントを開催する。マスコミ世論研究所としては、展示内容の企画・提案、パネル制作、資料提供などの協力を行う。

(イ) 「沖縄戦展」（6月、エル大阪）

沖縄戦の体験者50余名の体験談をパネルに展示、証言集会を同時開催する。

(ウ) 戦場体験証言集会（9月4日、中之島公会堂）

元兵士世代から社会に向けて直接体験を伝える場として、第5回「あの戦場体験を語り継ぐ集い」を大阪で開催する。シンポジウムも同時開催とする。

(エ) 戦場体験のパネル展 (11 月、都内)

戦場体験の展示イベントを都内で開催する。

(オ) 展示パネルの作成、貸出

展示パネルの貸出を促進する。各イベントでの広報を行う。

(カ) 交歓会の開催

元兵士と戦争を知らない世代のボランティアの交流の場を 3 月に開催する。

③ 戦場体験放映保存運動に関する広報活動

(ア) 「史料館つうしん」の発行

2016 年 4 月、7 月、10 月、2 月の 4 回発行を計画する。

以上